

JForest

森林組合だより

令和8年3月31日

発行

第 158 号



役員選挙理事第1区投票の様子

本荘由利森林組合

由利本荘市水林381

TEL 0184-24-4141(代) FAX 0184-24-4143

HP <http://www.honmori.com/> メール honmori@trad.ocn.ne.jp

本荘由利森林組合役員選挙執行 23名の役員が決定!

令和8年3月30日（月）任期満了による本組合役員選挙が執行され、理事20名、監事3名が決定しました。

今回の選挙では、理事第1区が4名の定数に対し6名の立候補、理事第3区が2名の定数に対し3名の立候補となり3月10日（火）に投票を行いました。

それ以外の選挙区の理事及び監事は無投票による当選となっております。任期は3月31日（火）から3年間となります。新役員は下記の通りです。

※立候補者が定数を超えず、無投票で決定した当選者は以下の通りです。

○理事当選者（届出順）

[第2選挙区（西目・仁賀保地区）]（定数3名）

1. 齋藤惣一郎（再任）にかほ市象潟町横岡
2. 鈴木 敏規（再任）にかほ市樋目野
3. 佐藤 勉（再任）にかほ市小国

[第4選挙区（岩城地区）]（定数2名）

1. 今野 真人（新任）秋田市山王
2. 伊藤 修二（再任）由利本荘市岩城滝俣

[第5選挙区（由利地区）]（定数2名）

1. 熊谷 典夫（再任）由利本荘市東鮎川
2. 佐々木法夫（再任）由利本荘市五十土

[第6選挙区（鳥海地区）]（定数2名）

1. 佐藤 衛（再任）由利本荘市鳥海町栗沢
2. 鈴木 充（再任）由利本荘市鳥海町上笹子

[第7選挙区（東由利地区）]（定数2名）

1. 浅田 照信（再任）由利本荘市東由利宿
2. 小松 佳和（再任）由利本荘市東由利田代

[第8選挙区（大内地区）]（定数3名）

1. 小笠原俊彦（再任）由利本荘市大倉沢
2. 小松 幸夫（再任）由利本荘市小栗山
3. 武田 清光（再任）由利本荘市中帳

○監事当選者（届出順）

[全地区]（定数：3名）

1. 佐藤 憲一（再任）由利本荘市矢島町七日町
2. 谷野 茂樹（新任）由利本荘市西目町西目
3. 村上佐左衛門（再任）由利本荘市鳥海町才ノ神

※立候補者が定数を超えたため、投票により決定した当選者は以下の通りです。

○理事当選者（得票順）

[第1選挙区（本荘地区）]（定数4名）

- 当選 99票 田口 基（再任）由利本荘市赤田
当選 40票 板垣 正昭（再任）由利本荘市一番堰
当選 33票 三浦 功（再任）由利本荘市川口
当選 20票 小松 義博（新任）由利本荘市裏尾崎町
次点 15票 合同会社秋田林業 猪股 奨大
由利本荘市内越
次点 11票 佐藤 健一 由利本荘市薬師堂

・総選挙有権者数…1,028人

・得票総数…219票

・無効投票…1票

・投票率…21.3%

[第3選挙区（矢島地区）]（定数2名）

- 当選 175.9票 佐藤 俊二（新任）
由利本荘市矢島町立石
当選 19.1票 佐藤 勝榮（再任）
由利本荘市矢島町田中町
次点 13票 小番 勲
由利本荘市矢島町立石

・総選挙有権者数…463人

・得票総数…209票

・無効投票…1票

・投票率…45.1%

令和7年度 地区座談会 開催

2月3日（火）～6日（金）の期間、各地区で地区座談会が開催されました。小松組合長の挨拶に続き、参事・各課長が今年度の組合経営状況と、各部門の事業進捗状況等を報告しました。座談会では組合員の皆様から多数のご質問をいただきましたので、各地区での会の様子も添えていくつかご紹介いたします。

矢島・由利・鳥海地区

〔2月3日・矢島コミュニティセンター「日新館」〕

Q、Jクレジットの仕組みについて知りたい。

A、森林経営計画画団地の中で過去に整備した山林・今後整備する山林がJクレジットの対象となります。ただ様々な条件による問題点があり、なかなか進んでいない状況です。

Q、一昨年の豪雨災害の復旧工事の進捗状況が知りたい。また、災害の影響で林道の通行ができず更新伐等の事業が遅れてしまう可能性があるため復旧の推進を促してもらいたい。

A、復旧工事を市に発注依頼していますが地域によって進行状況に差があります。更新伐についても、国や県に要望しながら進めていきたいと思っております。



岩城・大内地区

〔2月4日・岩城総合支所亀田出張所〕

Q、花粉の少ないスギ、エリートツリーの情報を耳にしたが、流通の現状と補助金について教えていただきたい。

A、一般の流通は令和8年度の予定となっております。なお、花粉の少ないスギ林への転換を進める市町村の林業事業体を支援する国の補助制度があります。対象となる重点区域として指定されているのは秋田市のみで、由利本荘市は対象外となっております。

Q、山火事被害を受けた立木は商品としての利用価値はあるか。

A、側部の炭化した部分は利用できないため、中心部をチップとして販売できないか模索しているようですが、まだ結論は出ておりません。



仁賀保地区

〔2月5日・仁賀保公民館「むらさぎ荘」〕

Q、Jクレジット制度で山主に還元はあるのか。また、個人で取り組むことは可能か。

A、販売したクレジットの収益は地域の森林整備に充てられることとなります。また、この制度は森林経営計画の認定を受けた団地が対象となるため、自治体や企業以外の森林所有者個人は実施できません。

Q、スギよりもカラマツの方が利益が出ると聞いたことがあるが、実際はどうなのか。また、雑木や薪の需要はどうか。

A、カラマツの方が単価が高いことはありますが、受入制限があり、スギの方が売買しやすいため、取引はスギがメインになっています。薪の需要はかなり多いのですが、薪伐採の作業員不足やナラ枯れの影響ですべての需要に応えるのが難しい状況です。



本荘・東由利地区

〔2月6日・由利本荘市「市民交流学習センター」〕

Q、近年はクマ被害だけでなく、田畑がイノシシ被害にも遭っている。森林環境譲与税を活用して防止・対策はできないのか。

A、森林環境譲与税は森林整備に直接的または間接的に関係する施策に充てられるものですが、イノシシは農作物に被害を与えている獣類なので、対象とはなりません。

Q、間伐の補助金が高いように感じるが、1ヘクタール当たり48万円も補助されているのか。

A、間伐の補助金は搬出材積や環境条件などで変動するため、一律の金額とはなっておりません。



第31回 造林コンクール表彰授与式及び林業講演会



2月13日（金）、第31回造林コンクール表彰授与式及び林業講演会が本荘グランドホテルを会場に開催されました。今回は3部門7点が入賞し、由利地域振興局長、由利森林管理署長、秋田県森林組合連合会長、本荘由利森林組合長から各賞が授与されました。

林業講演会では、秋田県農林水産部森林資源造成課調整・森林資源計画チーム副主幹兼サブリーダーの畠山恵氏より「脱炭素社会の実現に貢献する持続可能な森林経営」と題して講演いただきました。

審査結果

※受賞林分の写真は最終ページに掲載しています。

◆ 最優秀賞（由利地域振興局長賞）

収穫間伐の部 九十九人持山代表 村上 与一 氏（矢島地区）

◆ 優秀賞（由利森林管理署長賞）

収穫間伐の部 大須郷自治会長 須藤 恒 氏（仁賀保地区）

◆ 優良賞（県森連会長賞）

収穫間伐の部 小野 克子 氏（東由利地区）

◆ 入賞（森林組合長賞）

収穫間伐の部 丸山 真 氏（岩城地区）

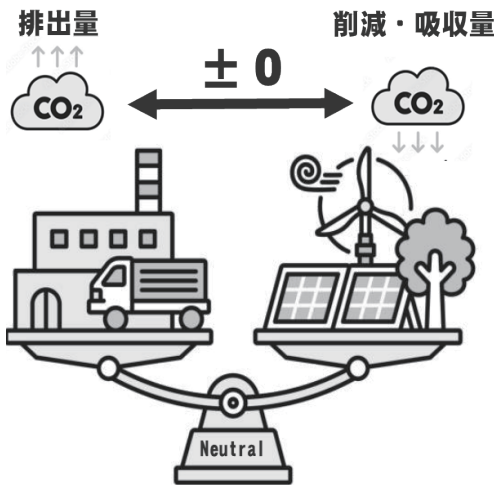
保育間伐の部 篠田 秀夫 氏（本荘地区）

枝打ちの部 畠山 清昭 氏（大内地区）

枝打ちの部 栗田 美草子 氏（鳥海地区）



脱炭素社会への第一歩「カーボンニュートラル」とは



カーボンニュートラルとは、地球温暖化の原因になっているあらゆる温室効果ガス（二酸化炭素が最も多く、他に一酸化二窒素、メタンやフロンガスなどの物質も含まれます）の排出量と、削減・吸収量を均衡させ、実質的な排出量をゼロにすることです。具体的には、

$$\text{排出量} - (\text{削減量} + \text{吸収量}) = 0$$

という考え方です。

化石燃料燃焼などで避けられない排出分は、植林や森林管理、CO₂ 回収・貯留（CCS: Carbon dioxide Capture and Storage/CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage）、直接空気回収（DAC: Direct Air Capture）などの技術で相殺されます。

今、社会全体で排出量と削減・吸収量のバランスを取り、2050年までに実質ゼロを目指す長期目標が日本を含む世界 120 以上の国と地域で進められています。

日本での具体的な取り組み

◆電力部門

火力から再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱）への切替でCO₂排出削減。

◆産業・製造

製鉄・化学・建材などの工場を電化、燃料転換（アンモニア・水素利用）、省エネ設備導入。

◆交通・運輸

電気自動車（EV）、燃料電池車（FCV）、バイオ燃料の導入、公共交通・カーシェアリングの促進。

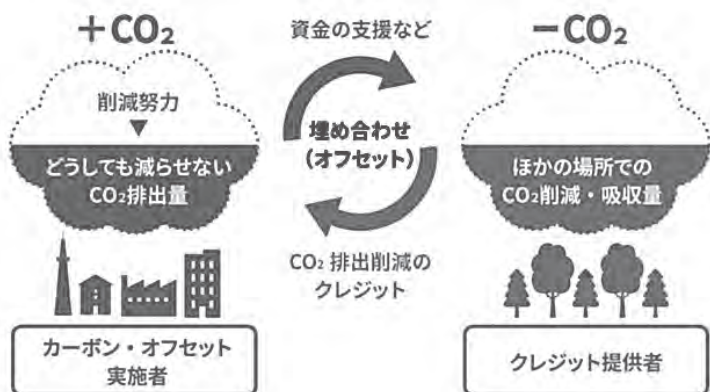
◆森林・農林水産業

植林、森林管理によるCO₂吸収、スマート農業でのメタン削減、バイオマス活用。

◆オフセット・技術活用

CCS/CCUS や DAC による CO₂ 回収と貯留、カーボンリサイクルで燃料やプラスチックへ再利用。

ちなみに、「カーボンオフセット」という言葉もありますが、こちらは、企業が排出削減のための努力をしても削減が難しい CO₂ 排出量を、他者の CO₂ 削減活動に投資して相殺し、実質ゼロにするという意味です。森林部門でも取り組みが進んでいる「クレジット制度」はこれに該当します。



木材市況情報 (令和8年)

単位：円、上段（石当り価格）
下段 m 当り 価格

樹種	材長 m	径級 cm	1月8日			2月3日			3月3日		
			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター		
			高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格
スギ	3.65	14下				(2,721) 9,797	(2,721) 9,797	(2,721) 9,797			
		16~22	(4,388) 15,798	(4,333) 15,601	(4,351) 15,666	(4,166) 14,999	(4,112) 14,804	(4,142) 14,913	(3,834) 13,803	(3,695) 13,302	(3,768) 13,567
		24~34	(4,392) 15,813	(4,139) 14,902	(4,284) 15,423	(4,111) 14,801	(3,750) 13,502	(3,991) 14,371	(3,920) 14,115	(3,500) 12,600	(3,742) 13,472
出材量・販売量・販売率			1,023m ³ (3,682石)・1,023m ³ (3,682石)・100%			590m ³ (2,124石)・590m ³ (2,124石)・100%			543m ³ (1,954石)・543m ³ (1,954石)・100%		

1月：県内外の業者の参加によって全量落札。価格も16~22cm、24~34cmともに15,800円/m³と前回と変わらず強含みの展開となった。新年に入っても、原木不足の状況は変わらず続きそう。

2月：県外勢を含む常連組の参加となった。価格は、全径級で弱含みとなり16~22cmで15,000円/m³、24~34cmで14,000円/m³前後での取引となった。

3月：県外勢を含む常連組の参加で、全量落札となった。引き合いはあるものの、価格は弱含みとなっている。16~22cmで13,400円/m³、24~28cmで14,000円/m³前後で大型工場が量をまとめた。

第31回 造林コンクール受賞林分



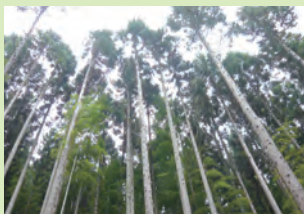
最優秀賞 収穫間伐の部
九十九人持山代表
村上与一氏



優秀賞 収穫間伐の部
大須郷自治会長
須藤恒氏



優良賞 収穫間伐の部
小野克子氏



入賞 収穫間伐の部
丸山真氏



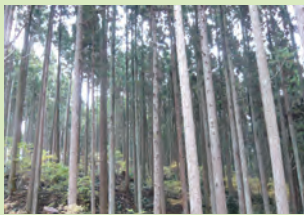
入賞 保育間伐の部
篠田秀夫氏



入賞 枝打ちの部
畠山清昭氏



入賞 枝打ちの部
栗田美草子氏



森林組合だより 令和八年三月三十一日発行 印刷・筒由利印刷